

会員通信 No.263

岩手県俳人協会事務局
〒020-0001岩手県盛岡市上米内字赤坂1-60 二階堂光江方
電話019-661-4816 振替02310-1-13697

第44回岩手県俳人協会総会・新年俳句会終了

…講師に西山睦本部理事・新年俳句会賞は二階堂光江氏…

新年度を迎えて 会長 白濱 一羊

会員の皆様におかれましては、御健吟のことと存じます。

1月25日に行われた総会・新年句会では、本部より俳人協会理事の西山 睦先生においでいただき、「よく味わい・よく表現する」と題して御講演をいただきました。「大正時代のホトトギスは『形式と内容がせめぎ合う』緊張関係を持って成長した」と話され、形式だけで判断せず内容を吟味することの重要性を強調なさいました。字余り・字足らずの例句を示し、具体的に説明していただきました。総会は本部講師の講演を聴くことができる貴重な機会ですので、今回参加できなかった方も、来年はぜひご参加ください。

総会では、新年度の事業や予算について承認され、今年度の体制が整いました。

また、会員の減少や会費免除となる名誉会員の増加により、支部会計が年々苦しくなっていることから、昨年度より名誉会員の皆様に協力金という形で任意の御支援をお願いし、多大な御協力をいただきました。感謝申し上げます。なお、今年度からは顧問の皆様にも御支援をお願いすることとなりました。

今後とも、会員各位の御協力をよろしくお願いいたします。

◇令和2年度岩手県俳人協会事業予定

◇第44回総会・新年俳句会・懇親会（実施済み）

・期日 令和2年1月25日(土)

◇第42回鍛錬会

・期日 令和2年9月13日(日)

・吟行地 紫波町(予定)

・会場 紫波町(予定) ※詳細は決まり次第、会員通信でお知らせします。

◇会員作品集発行(第42集)

・令和3年1月1日発行予定 ・会員自選10句掲載

・会員に1部配布(一般頒布1,000円)

◇俳句普及事業の推進

・公民館等の「俳句講座」への講師派遣

・公民館等への講師派遣事業の拡大、案内 他

※講師派遣のご希望がある場合は、お早めに、事務局二階堂光江(019-661-4816)

または、普及部長及川永心(019-645-2418)宛ご相談下さい。

◇令和2年度新会員の推薦について

新しい会員の推薦を受付いたします。同封の会員推薦要領をご覧ください、『会員推薦書』用紙に記載の上、事務局宛送付下さい。(3月20日締切) *本人の了解を必ず頂いて下さい。

◇令和2年度会費納入のお願い

・年会費 6,000円 *同封の振込用紙で3月中の納入をお願いいたします。

*今年度より振込料は各自負担となります。よろしく申し上げます。

○演題「よく味い・よく表現」

○講師 俳人協会理事 西山 睦 先生



今日の演題は高浜虚子の「俳句はかく解し かく味わう」（岩波書店）によるものである。この本には俳句の本質がずばりと書かれてある。最近、「上五の字余りは許される」、「中八はだめ」など

と根拠もなく言われていることに疑問を抱いていた。また、角川俳句歳時記第五版から「女正月」という季語が削除された。「女」に女性差別感が出るからかと想像するが、安易に削除するのではなく、もっと広い視野で見なくてはと思っていた。そのようなことからこの演題となった。

私の師は阿部みどり女で、女性初の蛇笏賞受賞者である。みどり女の源流を辿ると、虚子の「写生」と画家森田恒友の「写生論」に行き当たる。虚子は明治四五年にホトトギスの募集広告に《三つの柱》を掲げている。

①「調子の平明なること」、②「なるべく『や』『かな』の切れ字があること」、③「言葉簡にして余意多きこと」。

これらは俳句の本質であり今も変わらない。

大正時代のホトトギスは「形式と内容がせめぎ合う」緊張感をもって成長していた。自分の感性を表現するために五七五という形式をいかに活かすか切磋琢磨していた。今回は、それらが現れている字余り、字足らずの

句に触れつつ、自覚をもって自分の句をより良く表現するとはどのようなことなのかをみていきたい。

中村草田男による添削例である。「初荷幟の白さを競ひ富士ある町 鍵和田柚子」。原句は下五が「富士の町」。

下五を敢えて六音の字余りにしてでも内容が明快な方がいいと考えたのであろう。草田男は内容優先型の俳人で字数にとらわれない。最も有名な字余りの句、「凡そ天下に去来ほどの小き墓に参りけり 高浜虚子」から字余りは二四字までは許されると考えていたようである。

「金魚手向けん肉屋の鉤に彼奴を吊り 中村草田男」、
「関係ないだろお前つて汗だくでまとはりつく 小川軽舟」。これらもかなりの字余りであるが、俳句の歴史の流れを逸脱しておらず、新しい俳句を模索する意欲が感じられる。

雪はしづかにゆたかにはやし屍室 石田 波郷
上五を七音にすることにより切迫感をだしている。

月一輪凍湖一輪光りあふ 橋本多佳子
上五の六音は中七とセットになり動かさない。自分の感性を大事にして定型から外れても妥協しない。

夏草に汽罐車の車輪来て止る 山口 誓子
形式を思いつく形式にとらわれない表現をしている。

中八は緩むと言われるがこだわると句がやせてくる。
寒夕焼終われりすべて終りしごと 細見 綾子
気持ちちが五音に収まりきれないため下五を六音とし、

たっぷりとその余韻を表現している。
酷暑くる都市計画税納めても 守屋 明俊

ヒマラヤ杉伐られ空より冬が来る 加藤真治子
うらがへり 猷貌なる 朴落葉 古川 和子
海あれば生きてゆけると 牡蠣割女 木関 借楽
古日記いつも友ゐて 家族ゐて 大信田宏子
我が村は雪のゆつくりできるらし 小林 輝子
裸木のどこから湧くや鳥の声 鉄本 正人
固有名詞はそのまま字余りにしてよい。

秋の空に届く一もと芒かな 高浜 虚子
原句「秋空に」を自ら改作。説明的な印象が消えゆつくりと鎮まった昼の情景となった。
と言ひて鼻かむ僧の夜寒かな 高浜 虚子

上五に隠された一音の効果。これ以上言いようがない。
こんな良い月を一人で見て寝る 尾崎 放哉
字足らずで中断することで余情を強調している。字足らずで良いならそれで押し通すこと。

葬終え／車窓枯野／また枯野 西山 睦
中七が六音で詰まっているところに自分の気持ちがあった。そこには何も入れたくないという思いである。

切断することその空白が大いに鑑賞を助けるということがある。形式にとらわれず、形式と内容のせめぎあいということを考えてほしい。他の人の選も大切だが、俳句表現に対する自分のこだわりとプライドを持つてほしい。先人の努力、歴史の積み重ねが現代に繋がっている。先人の句をよく読みそれを栄養にし、自分の句として完成させることが大事である。（文責 山火律子）

☆新年俳句会賞(西山 睦先生選)

戻るたび波のしづまる白鳥湖 二階堂光江

☆西山 睦先生特選(四句)

冬林檎手にて分かつや銀河線 馬場 吉彦
我が村は雪のゆつくりできるらし 小林 輝子
猫舌のまことに淡き七日粥 津志田 武
クライスラーを鉄針で聴く待降節 菊池留美子

入選(十五句)

嵩上げの街から母の初電話 及川 永心
凍つる道ひとりひとつの影を曳く 吉田 布美
買初の母のお供の鋏一丁 阿部ゆき子
ヒマラヤ杉伐られ空より冬が来る 加藤眞治子
束稲山の背丈伸びゆく初明り 梅森 サタ
年用 意厨に 妣の花 鉢 円子 涼子
煙出る煙突見ゆる雪の朝 和田 タケ
元旦の浜にスクラム海を押す 岩瀨 正力
古日記いつも友ゐて家族ゐて 大信田宏子
海を向く堂開けてあり小春風 畠山えつ子
枯れきつて楸邸句碑の獣跡 岩瀨 洋子
冬ばらや空家に青年越し来ると 永澤千恵子
心地よき身ぶるひなりや初冠雪 木村 耀子
雪降り積む鍛冶屋にはただ槌の音 佐藤 雅子
寒北斗大河の水も汲み上げて 佐々木典子

☆白濱一羊先生特選(順に天・地・人賞)

正月の天地余さぬ子の遊び 澤口 航悠
振付は風の神です雪の舞ふ 小畑 柚流
裸木のどこから湧くや鳥の声 鉄本 正人

入選(七句)

「このかげが癒です」と医師冬はじめ 伊藤さとる
大晦日常は灯さぬ部屋にも灯 佐藤たけ子
加湿器の水音こぼと霜の夜 大信田宏子
目鼻まだ貫はぬこけし初明り 小林 輝子
雪降り積む鍛冶屋にはただ槌の音 佐藤 雅子
猫舌のまことに淡き七日粥 津志田 武
草の葉の葉にたどる古日記 安達 広子

☆小畑柚流先生特選(順に天・地・人賞)

健やかに老いて着こなすちやんちやんこ 兼平 玲子
海あれば生きてゆけると牡蠣割女 木関 借葉
煩惱を断切るほどの寒稽古 千葉 常子

入選(七句)

モニターの波形を乱す雪女郎 千葉 百代
初晴や南部片富士見得を切り 土川喜代子
大晦日常は灯さぬ部屋にも灯 佐藤たけ子
目鼻まだ貫はぬこけし初明り 小林 輝子
ビル街の名水を汲む十二月 佐藤 嘉子
炉咄の終はサムトの婆の出で 鈴木 睦子
初神楽己の欲を呼び覚ます 榎原 康二

☆小林輝子先生特選(順に天・地・人賞)

射干玉の闇に若水明りかな 岩瀨 洋子
銀嶺の思はぬ近き初電車 二階堂光江
嵩上げの街から母の初電話 及川 永心

入選(七句)

年用 意厨に 妣の花 鉢 円子 涼子
健やかに老いて着こなすちやんちやんこ 兼平 玲子
冬日差し点滴きらりきらり落つ 伊藤さとる
遠い木は遠い木のまま冬田打 和田 タケ
炉咄の終はサムトの婆の出で 鈴木 睦子
雪吊りや母は漬物漬けはじむ 菊地 節子
クライスラーを鉄針で聴く待降節 菊池留美子

☆馬場吉彦先生特選(順に天・地・人賞)

クライスラーを鉄針で聴く待降節 菊池留美子
枯れきつて楸邸句碑の獣跡 岩瀨 洋子
初雪や生垣覆ふカプチーノ 大平 春子

入選(七句)

買初の母のお供の鋏一丁 阿部ゆき子
開運橋居着くつもりか小白鳥 小畑 柚流
初御空。ペースメーカーと生きてみる 阿部野の女
「このかげが癒です」と医師冬はじめ 伊藤さとる
凧や久方ぶりの喫茶店 佐藤 雅子
鳥一羽いざなふ濡の炬燵船 服部 常子
病む人に雪見障子を全開す 長谷川かよ子

☆澤口航悠先生特選(順に天・地・人賞)

面とれば小学生や延年舞 馬場 吉彦
嵩上げの街から母の初電話 及川 永心
銀嶺の思はぬ近き初電車 二階堂光江

入選(七句)

炉の跡の黒き煉瓦や山眠る 鈴木 展子
初御空。ペースメーカーと生きてみる 阿部野の女
筆談のためのメモ帳火恋し 円子 涼子
煙出る煙突見ゆる雪の朝 和田 タケ
裸木のどこから湧くや鳥の声 鉄本 正人
ここだけの話次つぎ女正月 吉田香代子
猫舌のまことに淡き七日粥 津志田 武

☆及川茂登子先生特選(順に天・地・人賞)

日の本に御蔭といふ語初日の出 川村 健
大晦日常は灯さぬ部屋にも灯 佐藤たけ子
初御空。ペースメーカーと生きてみる 阿部野の女

入選(七句)

嵩上げの街から母の初電話 及川 永心

◇岩手県俳人協会役員紹介（令和2～3年度）

先日の総会で役員が改選されました。役員の皆様よろしくお願いたします。

顧問	小原 啄葉・村上 沙央	理事	安達 広子（作品部）
〃	浅田 白道・小畑 柚流	〃	古川 和子（句会部） 新任
〃	小林 輝子・馬場 吉彦	〃	二階堂光江（事務局長）
会長	白濱 一羊	〃	大信田宏子（事務局次長）
副会長	澤口 航悠（作品部長）	監事	津志田 武 新任
〃	及川茂登子（句会部長）	〃	菊池 節子 新任
〃	及川 永心（普及部長） 新任	事務局	阿部ゆき子（会計担当）
理事	吉田 茂樹（作品部副部長） 新任	〃	菊池留美子（事業部担当）
〃	鉄本 正人（句会部副部長）		
〃	山火 律子（作品部副部長）		

☆役員ご退任の方々です。長い間ありがとうございました。

○馬場吉彦様・副会長・普及部長としてご尽力頂きました。

今後は顧問としてご指導頂きます。

○加藤真治子様・畠山えつ子様

・理事としてご尽力頂きました。

○高橋みさ男様

・監事としてご尽力頂きました。

~~~~~ 俳句大会ご案内 ~~~~~

◇第1回矢巾町俳句大会～小原啄葉生誕の地～

○期日 3月8日（日）

○会場 矢巾町公民館 第3・4研修室

○受付 11:30～

○投句締切 12:30（当季雑詠3句1組 何組でも可）

○開会 13:00 ・閉会 16:15 予定

○投句料 1組1,000円（当日受付にて 高校生以下無料 昼食各自）

\*矢幅駅と会場の間で次のとおり送迎バスを運行します。

・矢幅駅西口前発 11:45 ・矢巾町公民館発 16:30

◇第27回雑草園祭

○期日 4月26日（日） ○会場 日本現代詩歌文学館 ○受付 9:30～

○当日句締切 11:00（詩歌の森公園・雑草園の囁目雑詠2句） ○開会 11:05

○参加料 1,000円（昼食各自）

○記念講演 講師 小畑柚流先生（『樹氷』『天為』同人） 演題は未定

○募集句 3月1日締切（冬季・春季雑詠2句1組1,000円 小為替で同時送金 何組でも可）

\*投句先 〒024-0032 北上市川岸4-4-13菅原典子方 「第27回雑草園祭」事務局宛

◇岩手県俳句連盟通常総会・県下俳句大会

○期日 6月14日（日） ○会場 岩手県公会堂 ○受付 9:30～ ○総会 10:30～

○第39回県下俳句大会

①当日句 投句締切 11:00（当季雑詠3句） 参加料 1,500円（昼食各自）

②事前投句 4月20日（月）締切（当季雑詠2句1組1,000円定額小為替で同時送金 何組でも可）

\*送付先 〒028-4302 岩手郡岩手町大坊2-34-8 山口國男方

「第39回県下俳句大会募集句係」宛

◇会員作品集訂正のお願い

令和元年度会員作品集について  
間違いがありましたので、次のよ  
うに訂正をお願い致します。  
80ページ上段8句目  
(誤)机 ↓(正)机  
馬場吉彦さんには心よりお詫び  
申し上げます。